

冬春期の施設野菜等におけるタバココナジラミの防除対策

タバココナジラミは、果菜類を中心に野菜類や花き類で様々な被害を出します。今後、冬春期の施設野菜の植付けが始まるため、施設栽培での初期防除対策が重要となります。

1 情報の根拠

- (1) タバココナジラミは、冬春期の施設栽培において例年多発する傾向にある。
- (2) 本種は、果実等の着色異常やトマト黄化葉巻病などのウイルス病を媒介するほか、多発するとすす病を誘発し収量品質を低下させるので、発生初期の防除徹底が重要である(表及び図参照)。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は、年 10 数回以上の世代をかさね、特に施設内で多発しやすい。
- (2) 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- (3) 育苗管理を徹底し、苗による本圃への持ち込みを防ぐ。
- (4) 施設内への飛来侵入を防ぐため、出入口を開放しない。また、近紫外線除去フィルムの展張や施設の開口部に目合 0.6 mm 以下の防虫ネット等を張る。
- (5) 黄色粘着テープ等による早期発見に努める。
- (6) 摘葉や収穫後の残渣等は圃場外へ持ち出し、ビニール袋に入れるなど密封して処分する。
- (7) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。
- (8) バイオタイプ Q は、ネオニコチノイド系薬剤の一部やピリプロキシフェン剤、エトフェンプロックス剤などの薬剤に感受性が低い事例が報告されており、物理的防除や耕種的防除を含めた総合防除対策の徹底が必要である。

表 タバココナジラミによる被害

作物	被害	被害の程度
トマト ミニトマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)の媒介	減収～収穫皆無
	トマト巻葉病(AYVV)の媒介※	減収
	果実の着色異常	商品価値低下
さやいんげん	莢の着色異常(白化症)	商品価値低下
ピーマン ししとう	果実の着色異常	商品価値低下
きゅうり メロン すいか	ウリ類退緑黄化病(CCYV)の媒介※※	減収～収穫皆無
とうがん	葉及び果実の白化症	商品価値低下
トルコギキョウ	トルコギキョウ葉巻病(TYLCV)の媒介※※	減収および商品価値の低下
かぼちゃ	葉の白化症	減収
野菜類 花き類	すす病の誘発	減収および商品価値の低下

※八重山でのみ発生。

※※沖縄県では未発生。

タバココナジラミの各種被害



図1 にがうりの葉裏に寄生するタバココナジラミ成虫



図2 排泄された甘露によってすす病が発生したにがうりの葉



図3 白化したさやいんげん（上は正常）



図4 着色異常のトマト（左は正常）



図5 トマトの黄化葉巻病



図6 かぼちゃの葉の白化症状



図7 オニノゲシ（雑草）に寄生するタバココナジラミ